

授業科目名	ホスピタルアート		担当教員	◎須藤 光和、関根 一夫	科目ナンバリング LE111
選択	開講年次：1年前期	単位：1単位	授業形態：講義15時間 演習15時間		

【授業概要】

臨床美術の手法により看護師や患者など病院内で生活する人々自らが制作したアート作品を自らの手で展示し、アーティストと協力しながら実践していくホスピタルアートを、演習を通して体験的に学び、ホスピタルアートディレクションを行う基礎を学ぶ。

【達成目標】

1. ホスピタルアートの概念を理解する。
2. 臨床美術の手法で作品制作を楽しみ、作品制作が人にもたらす効果を理解する。
3. 自分で制作した作品を使って、アートが環境に与える影響を体験的に学ぶ。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

[01] アートプログラム制作①：目に見えないものを感じて描く「音のアナログ画」	(須藤)
[02] 講義：ホスピタルアート・臨床美術の概要／制作体験「色面とマチエール」	(須藤)
[03] アートコミュニケーション①：存在論的人間観を学ぶ	(関根)
[04] アートプログラム制作②：実感して描く「リンゴの量感画」	(須藤)
[05] アートプログラム制作③：立体制作－1「かぼちゃの立体制作」造形表現	(須藤)
[06] アートプログラム制作③：立体制作－2「かぼちゃの立体制作」色彩表現	(須藤)
[07] アートコミュニケーション②：共同制作「2人で描くアナログ画」	(須藤)
[08] アートコミュニケーション③：感性地図を用いたコミュニケーション／鑑賞会のロールプレイング	(須藤)
[09] 講義：ホスピタルアートの実際	(須藤)
[10] 作品展示の実践①：展示計画 グループワーク	(須藤)
[11] 作品展示の実践②：展示準備 グループワーク	(須藤)
[12] 作品展示の実践③：作品展示 グループワーク	(須藤)
[13] 実践の基礎①：「さつまいもの量感画」試作	(須藤)
[14] 実践の基礎②：「さつまいもの量感画」ロールプレイング	(須藤)
[15] 実践の基礎③：展示作品鑑賞と振り返り・展示撤収 まとめ	(須藤)

【教科書】

金子健二編(2007)「臨床美術－認知症治療としてのアートセラピー」日本地域社会研究所

【参考書】

宇野正威・芸術造形研究所編(2013)「臨床美術－認知症医療と芸術のコラボレーション」金剛出版

【評価方法・評価基準】

授業に取り組む姿勢・作品提出 70%

課題レポート 30%

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：アートコミュニケーション③では、事前に感性地図を描画する。作品展示の実践①では、展示プランについて自分のイメージを描画する(各1時間)。

事後学習：アートコミュニケーション①、アートコミュニケーション①～③では、課題の内容を振り返りレポートを記述する(各1時間)。

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必要要素Ⅰ. 教養教育で培う普遍的基礎能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題作品については、その都度授業内で振り返りをする。

ロールプレイングについては、グループ内で発表し、授業内で振り返る時間を持つ。

【備考】

ホスピタルアートの学びは、2年次のオルタナティブセラピーの基礎になる。